

こんにちは!いつも元気いっぱい!島谷貴子です。
今号では「杏葉」について語らせて頂きます。

語ります 大和魂

平安時代後期より、戦が馬上から、地上へと変わっていきま
した。下級武士が使用していた腹当*には袖がなかった為、
最初は肩の防御用に杏葉が作られました。大袖や、袖より
も小さい形の物を使用していましたが、鎌倉後期から室町
時代になると、上級武士も使用するようになりました。
(* 腹に充てる防具、左右胸を覆うだけの軽武装用。)



～肩の防御から～

戦国時代からは、槍や鉄砲で
の戦が主流となったため、鎧も防御・動きやすいものへと変化
していきました。その為、肩先から左右の胸に垂れるように用
いられ、防御する場所が変わっていきました。

| 形と、使われていた時代 | 鎌倉時代 | 室町時代 | 江戸時代 | |
|--|-------------------------------|-------------------------------|--------------------|--------------------|
| 特徴 | 上部は楕型。下部は内曲がり尖っている。杏葉の緒の穴が両端。 | 上部は楕型。下部は内曲がり尖っている。杏葉の緒の穴が両端。 | 上部は楕型。杏葉の緒の穴が中央寄り。 | 上部は楕型。杏葉の緒の穴が中央寄り。 |
| 最古の杏葉 島津家に伝来した鉄象嵌杏葉。鉄板に覆輪をし、左右に大きく猪目に蝶番付したもの | 南北朝時代 | 戦国時代～江戸前期 | 江戸時代中期～後期 | |

戦の変化により、肩を守るものから心臓を守るものに、変化していった杏葉。下級武士が主流で使用していた腹当だった為、杏葉がついた状態で奉納されることはありませんでした。その為、どの位の大きさで、どうやって付けられていたかが、はっきりしていません。しかし調べていくと、その時代に合わせ使用しやすいように形を変えていたことがわかり、当時の日本人の知恵を感じました。

二検校

2018年も「有限会社 大名」をご愛顧下さり誠にありがとうございました。
今年も早いもので、残すところあとわずかになりました。皆様にとって2018年はどんな一年
でしたか? 2019年も、皆様が体調を崩さず、笑顔で新たな年を迎えられますように願っております。
そして、来年も引き続き「届けますっ!大和魂」をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

恒例、年末に一句・・・有名な吉田 松陰の辞世の句
身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留置まし大和魂
を大幅にアレンジして

他の雑誌たとひゴミに出されても留め置いてね大和魂
(一生懸命作ってます。捨てないでね) ハナエモン

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。 件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。

最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>
広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

届けますっ! 大和魂 2018年12月 Vol.27

こんにちは。中堀明美です。 国宝・世界遺産にも登録されている兵庫県にある 姫路城へ研修旅行に行ってきました!!

起源は... 1333年、姫山という小高い山の上に赤松則村が紫
のようなものを築きました。その後、1346年に則村の子である、
赤松貞範によって建てられたのが姫路城の最初とされています。

思った以上の
お城の大きさに
びっくりしました!!

1580年、黒田孝高(官兵衛)
が城主のころ、織田信長軍
の中国攻めのために、
姫路城が重要になると考えた

官兵衛は、なんと秀吉に城を譲りました。
秀吉は、あらたに造り直し、3層の城を築城しました。
そして、1600年の関ヶ原の戦いの後、池田輝政が
城主になり、9年の歳月をかけて3層の城を、
現在の5層7階の城に大改築しました。
城内へ入ると、こんなお城どうやって攻めるの?
と思うくらい造りが工夫されていました。

●多くの狭間...



丸や三角や正方形、長方形で、これらの穴から
鉄砲や弓で敵を攻撃することができます。

ただの模様じゃなかったんですね~

●「に」の門...



重厚な鉄の門です。2階建ての門は、敵が
下を通過するときに2階の床(1階の天井)
をはずして上から総攻撃したそうです。

天井が低いので、槍
が降ってきて攻撃さ
れるかもしれないと
思いながら通ると
結構怖かったです。

●「ほ」の門



一度に大勢の敵兵を通れなくする
ことで、攻められたときに時間稼
ぎができるよう小さく作られた門
です。少数しか通れないので、
門の内側から通ってきた敵を大勢
で狙い撃ちできます。他にも21門
あるそうです。たくさん、門を構
える事で、大人数で入る事を阻止
し、敵を混乱させ迎え撃つような
造りになっていました。

●石落とし



壁にいくつか下向きの出
窓のようなものがありま
す。これは、城内から石
垣の下にいる敵や石垣を
登る敵にむけて、石を投
げ落としたり、熱湯を掛
けたりするための窓だと
いわれています。

中面へ続く

お城の中には...

●壁一面に武器を掛ける
武具掛け



●急傾斜の階段

上りにくいし、降りにくく...私だけ次の日、筋肉痛でした...



自分が敵兵の1人
だったとしたら、
たぶん天守閣内
に入る前に討ち取られて
いたと思います(汗)



もっと沢山の仕掛けがありました
が紙面の都合上、載せられないのが
残念です。ぜひ実際に足を運んで
みて下さい!

~他にも興味深い見どころが満載でした!!~

●十字紋鬼瓦

キリシタンだった
黒田官兵衛が城主
だった頃の鬼瓦だ
という説もあるそ
うです。



●姥ヶ石

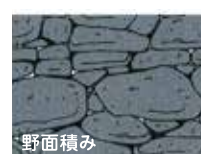
秀吉が姫路城を築城しようとした時代に石が足りず、石不足で困っていたところ、老母が石臼を役に立てて欲しいと差し出しました。それを大そう気に入った秀吉は石垣の目立つところにこの石臼を使いました。このうわさが広まり、各地から石が集まり、築城をすすめることができたというお話が残っているそうです。



●上山里下段石垣



秀吉が改築したときに、官兵衛に設計・施工を指示し、積まれたとされています。自然の石をほぼそのまま積んだ「野面積み」という技法です。石積み技術の原初的なものだそうです。当時、高々と積み上げる技術が未熟だった為、写真の様に、上下の石垣が分かれる、二段構えの構造になっています。



加工しない自然のままの石を積んでいるため、隙間が多く、見た目には不揃い。

一見時代遅れとなってしまった石垣技術でも、次代の城主たちからは評価されていました。理由は、2段になる事で美しいアクセントになっていた事。自然石を利用する事で経費削減になったからだそうです。だからこそ、姫路城を現代に残せたのかもしれない。

「姫路城は綺麗だけど、何も無い」と聞いたことがありました。なので、正直そんなに期待していませんでしたが、実際に目の当たりにすると...白く輝く迫力な大きさのお城にびっくりしました!! 白い鷲が舞い立つ姿から、別名で白鷲城とも言われているそうです。ただ美しいだけでなく、戦いに勝つための知恵が随所に活かされた仕掛けにも魅了されました。細やかな戦略を、お城からも感じました。そして約四百年もの時を経た、官兵衛ゆかりの石垣を見た時は、本当にタイムスリップした気持ちになりました。皆様は姫路城にいらっしゃった事がありますか? おありの方は、是非とも感想をお教え下さい。そして、まだいらっしゃったことのない方は是非とも足を運んでみて下さい!

帰りに姫路城の隣にある
はりまのくにそうしゃ
播磨国総社
に参拝しました。



正式名称は「射楯兵主神社」です。播磨国内の大小明神 174座の神々を
合わせ祀られていることから、「播磨国総社」と呼ばれています

- 射楯大神...日本の国をお護りしている神様、勝利や幸福へ導く道開きの神様としても崇敬されています。
- 兵主大神...縁結びの神様として名高く、福の神として慕われています。農業・工業・商業のあらゆる産業から、医薬、酒造までを生み出して、人々の暮らしを豊かにされた国造りの神様としても崇敬されています。その為、播磨の漁師さんたちが参拝に来たり、官兵衛も戦での勝利を祈って参拝に訪れていたそうです。



お客様との
素敵なご縁を願って
参拝させて頂きました。

次ページでは
黒田官兵衛について、
ハナエモンがタイムスリップしています!!
引き続きお楽しみください!!



ハナエモンの 合号では、姫路にゆかりのある、
2の方にタイムスリップ!

軍師なれど、軍師にあらず! 黒田 孝高



4年前に放送された大河ドラマでも「軍師官兵衛」ってタイトルだったじゃないか!?と、思われる方も多数いらっしゃると思います。しかし、そもそも日本には軍師という、官職、肩書はありませんでした。ですが、天下統一を果たした、豊臣秀吉の右腕であったことは間違いありません。

通称
黒田官兵衛(くろだ かんべえ)



この先は織田信長が台頭してくるはずじゃっ!

官兵衛29歳、織田信長が將軍義昭を追放すると、今後は織田家が台頭してくると確信し、主君・小寺政職に進言し、後の主君・羽柴秀吉を通して、信長に従います。



29歳にして、この先見性...末恐ろしい若者ですね! その後、予想通り、信長は天下統一へ、あと一歩のところまで迫りましたね。



出家して、意思を伝えるしかないの~

官兵衛47歳頃、天下を統一した秀吉が近臣たちに、質問をしました。
秀吉:「わしが死んだ後は、誰が天下を取れると思うか?」
家臣:「徳川様か、前田様ではございませぬか?」
秀吉:「いやいや、官兵衛よ。お前たちは、あやつの力をよく分かっておらんのじゃ」
この話を聞いた官兵衛は、「これは、我が家の災いの元だ。髪を剃って、出家し、天下取りの意思がないことを伝えねばならぬな。」
その後、剃髪し、黒田如水と名乗りました。



既に家督を息子に譲ってはいたものの、官兵衛の能力をよく知っている秀吉からすると、未だに恐ろしい部分もあったのかもしれない。



織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と3人の天下人に仕え、50を超える合戦で一度も敗れていないと云われ、天才軍師の名に相応しい活躍をした官兵衛ですが、晩年になると、長年仕えてきた重臣達を罵るようになってきたそうです。ある時、重臣達から話を聞いた息子・長政が官兵衛を諫めに行きました。すると官兵衛は「これはそちの為にしているのだ。乱心しているのではないぞ」官兵衛は、自分が嫌われることで、長政が統治しやすい環境作りを狙っていたそうです。まだまだ先の話ですが、私も後継者(息子)に会社を譲る際は、後継者が経営をしやすい環境づくりをしていかないといけないと学ばさせて頂きました。

